－宮城県－

浜の母ちゃん復興プロジェクト開始！！

～貝殻アクセサリー「わたつみ」製作事業について～

宮城県漁協女性部連絡協議会
畠　山　　悦　子

１．地域の概要

私たちの住む宮城県は、東北地方の中心部に位置し、東は太平洋に面し、豊かな漁場と日本三景の一つ松島をはじめとする風光明媚な観光地などに恵まれている。

県の中央部には広大な平野部を持ち、稲作中心の農業が行われており米所として有名である。

水産業においては、世界三大漁場の三陸沖漁場に近いため、県内には気仙沼漁港、石巻漁港、塩釜漁港の３つの特定第３種漁港を初めとする 142 の漁港があり、全国第 2 位の漁業生産量を誇っていた。１県に複数の特定第３種漁港を持つ県は、日本国内において宮城県が唯一であり、カツオ、サンマ、マグロのほか、カキ、ふかひれ、ホヤなどの特産の水産物が生産されていたが、平成 23 年３月に発生した東日本大震災の影響により、これらの生産は大きく落ち込んだ。現在は国や民間等から多くの支援を受けながら、水産業関係者が一丸となり早期復旧・復興に向けた取り組みを行っている。

２．漁業の概要

宮城県漁業協同組合（ＪＦみやぎ）は、平成 19 年に合併した県単一漁協である。平成 24 年度末現在、正組合員数 4,597 名、准組合員数 5,472 名で構成されている。

ＪＦみやぎは、養殖業を主体とした組合で主要な品目として、のり・かき・わかめ・ほたて並びに銀ざけを取り扱っており、平成 21 年度の取扱実績は漁船漁業の水揚げも併せて約 354 億円であったが、東日本大震災による壊滅的な被害により水揚げが大幅に減少した。その後、水揚げは回復傾向にあるものの平成 24 年度の取扱実績は約 189 億円となっている。

３．研究グループの組織と運営

宮城県漁協女性部連絡協議会は、宮城県漁業協同組合に所属する団体であり、漁家の生活と営漁の計画化を目指し、全国的に漁協婦人部の組織化の機運が高ま

ったことなどから、昭和 31 年９月に設立された。

当協議会は北部・中部・南部の３つの漁業地区から成っており、平成 22 年３月末時点で、県下 22 支所女性部の 2,148 名の会員が所属していた。震災後は平成 25 年３月末時点で、県下 19 支所女性部の 1,482 名と減少している。

当協議会では「組織の強化と活性化」、「水産物の消費拡大」、「健康なくらしと環境保全運動の推進」、「漁協全利用と生活設計の推進」の４項目を主要事業の柱とし、ライフジャケット着用推進運動、魚食普及活動、貯蓄推進運動、漁船海難遺児募金活動等具体的な取り組みを行っている。

当協議会全体としての活動の他、各支所女性部単位においても、地域に密着したイベントの開催や魚食普及等、積極的な活動に取り組んでいる。

生協での料理教室

事業計画の柱

４．研究・実践活動の取り組み課題選定の動機

宮城県は全国第２位の漁業生産量を誇る水産県で、全面に広がる豊かな漁場と活気溢れる漁村地域であり、私たち浜の母ちゃんとしても、活気ある漁村づくりのため、家族とともに生産活動に女性部活動にと忙しくありながらも充実した日々を送っていた。

ところが、平成 23 年３月 11 日、あの東日本大震災が発生した日、私たちの日常が一瞬にして奪われてしまった。

巨大地震と大津波が宮城県沿岸域の全てを襲い、想像を超える高さの津波によって、生活基盤である家屋や家財等は勿論のこと、漁船や漁具を始めとする養殖施設、漁港、陸上加工施設など、先祖代々受け継いできた大切な漁業生産の場をも飲み込み、壊滅的な被害を受けた。その後漁村の男性たちは、早期の生産再開に向け、親組織である宮城県漁協や行政機関の復旧・復興に向けた支援策を活用し懸命に取り組んでいた。

一方、当協議会員の多くは長期にわたる避難所生活を余儀なくされ、全ての会員の安否確認も困難な状態に陥り、女性部活動も事実上休止状態となっていた。

私たちの家族であるＪＦみやぎ組合員・漁業に携わる男性たちが、浜の復旧・復興に向けて日々瓦礫の撤去作業や生産施設の復旧作業に追われる中、私たち女性は、水揚げサポートという仕事を失い、更には女性部活動の休止、慣れない避

難所生活という環境が重なり、不安な日々を過ごしていた。それと同時に、浜の母ちゃんとして家族を支え、浜を支え、活気ある漁村を築く原動力である私たちが、漁村の活気を取り戻すために漁協女性部員として何が出来るのか、何をすべきなのか、思い悩む日々が続いた。

当協議会は、まず、浜の原動力である私たち自身が元気を取り戻すべく、会員相互のコミュニティの場を取り戻すことが最優先であると考え、更には女性部活動再開の為の資金の確保が出来る活動を目的として何度も検討を重ねた結果、アクセサリー製作事業「わたつみ」の開始を決定した。

５．研究・実践活動状況及び成果

（１） わたつみの誕生

震災の影響により、当面は助成金や会費収入が見込めない状況となり、各支所女性部を初めとして当協議会の活動が出来ない状況にあった。私たちはまず、４つの課題①『金銭的に女性部が自立すること』、②『震災でバラバラになってしまった会員間のコミュニティの場の確保』、③『地域の女性たちの結束を高めるための会員新規加入促進』、④『浜の活気を取り戻すこと』を解決するために当協議会の役員会において何度も検討を重ねた。その折り、財団法人宮城県水産公社（現在名称：公益財団法人宮城県水産振興協会）より、当協議会に「廃棄していたアワビの稚貝の殻」の素材を活かした加工製品製造の相談があり、これを受け浜の復旧・復興に向けた取り組みとして支所女性部の現状と合わせみて、アワビの稚貝の殻を使用した手仕事を事業として進めることとなったのである。

会員たちが手作りで製作したアクセサリーを販売した売上は、各支所女性部と当協議会の活動資金に充て、会費収入がなくともこれまでの女性部活動を再開することが可能となり、何よりも製作中は「いつもの仲間の顔」を見ておしゃべりをしながら、作業を進めることができ、笑顔と元気を取り戻すきっかけとなる。また、私たちが楽しく、笑顔で取り組んでいるのを見れば「一緒にやりたい」と考える女性たちも必ず現れるので、新規会員の加入促進や、地域の女性の結束を高めることにもつながる。この取組は、当協議会が目標としていた先の４つの課題をクリアする事業となることを確信し、期待を込めて平成 23 年 12 月に開催した役員会にて事業開始を決定した。

アクセサリーのコンセプトは、海で育ち、海に生き、優しさや強さを持つ私たち浜の女性が一つ一つ心を込めて手作りし、また、海の神様である“わたつみ”が守ってくれるような祈りを込めたアクセサリーにしたいと考え、『わたつみ』と命名した。

（２） 多くの方々からの支援

本事業を開始するにあたり、これまでに実施したことのない全く新しい取り組みであったため、材料の調達・初期費用の工面・製作に当たっての技術の習得など、諸課題があり、単独での事業実施は難しい状況にあった。そのような中、事業に賛同して頂いた様々な団体の方々が、私たちに手を差し伸べてくれた。

財団法人宮城県水産公社（現在名称：公益財団法人宮城県水産振興協会）には、原料であるアワビ稚貝貝殻を調達するために関連機関との調整を図って頂き、現在では他県の種苗施設から協力頂きたくさんの貝殻を仕入れることが出来るようになった。

地元金属工芸作家であるアトリエＰＯＰＰＯには『わたつみ』のデザイン、講習会においての製作に係る技術指導を協力して頂いている。

特定非営利法人ＪＥＮには、事業開始から平成 25 年６月まで『わたつみ』製作に係る工具費等の初期経費や材料費を支援して頂き、また、様々な事業展開で培われたノウハウを活かし、販路開拓等、総合的に支援をして頂いた。

そして何よりも、全国の水産関係団体や漁協女性部の仲間からたくさんの義援金とともに贈られてきた「早く元気になってほしい」「頑張れ」の暖かい声が、私たちの取り組みの力強い後押しとなった。

（３） 事業内容

事業内容は、当協議会が原料調達・品質管理の徹底・販売・販路開拓・支所女性部への講習会を行い、支所女性部は、アクセサリーの製作をすることとなっている。

材料を受けた支所女性部は、商品を製作し完成品を当協議会に送付し、当協議会が販売した売上の一部は製作した女性部の活動資金や当協議会の活動資金に充てることとしている。

（４） 商品について

商品は携帯用ストラップ、ネックレス、ピアス、イヤリングの４種類である。アワビの貝殻は、1.5～2cm であるため、物によっては壊れやすい素材であった。そこで強度を高めることや、アクセサリーとしての輝きが増すこともあり、一つ一つ丁寧に透明なコーティング塗料を塗っている。貝殻のそのままの色や美しさを活かすため、色を加えたりせず、加工は最小限に留めているが、種苗施設から送られてくるアワビの貝殻は養殖できれいな色彩であるため、購入者からは「貝殻のそのままの色が良かったのに水色の塗料が塗ってあった」との声が上がるほど、鮮やかなターコイズブルーである。

価格については、税込み 700 円から 1,000 円とアクセサリーとしてはリーズナブルに設定した。「復興商品」という期間限定の商品ではなく継続して取り組める事業にしたかったためである。低価格・高品質な製品を出荷することは、「プレゼントにもう一つ」や、「また買いたい」とリピーターを増やし、本事業が継続的に実施できることに繋がるために、製造・販売には細心の注意を払っている。

ストラップ：700 円

ネックレス：1,000 円

イヤリング：1,000 円

ピアス：1,000 円

（５） 取り組み開始に係る講習会

前述の事業内容に沿って事業を進めるのであるが、商品の製作にあたり、北部・中部・南部に分かれ講習会を開催した。講習会にはアトリエＰＯＰＰＯの金属工芸作家の先生に同行して頂き、各支所の女性部員に対し、熱心に作業方法を指導して頂いた。

先生の作業工程を確認しながら、作成することとなったが、慣れない細かい作業であるため、「難しい」「出来ない」「製作途中に材料が破損してしまう」等の声がありながらも、数をこなしていくうちに、ひとつの制作時間が短くなり、また完成度も高くなっていった。

講習会では、久々にいつも見慣れた仲間の顔が集まったため、製作中もついついおしゃべりをしながら楽しそうな笑顔が見られ、真剣に取り組む中でもほっとした顔の会員の表情が非常に印象的であった。

北部地区製作講習会

中部地区製作講習会

真剣に作業をする会員

講師の熱の入った指導

（６） 販売開始

製作した商品は、まず南三陸町志津川で平成 23 年 12 月 29 日に開催された「おすばて祭り」で志津川支所女性部の協力のもと、試験販売を行った。販売結果はネックレス 13 個、イヤリング２個、ピアス５個が売れ、東京から被災地支援で来たと話す男性からは「完成度が高い」「漁村復興のために」との言葉を頂き、また、10 代～20 代の若い女性は、「本物の宝石のようでかわいい」「自然の物だから、一つ一つが色や形が異なり、自分だけのアクセサリーが楽しめる」ととても好評であった。

おすばて祭り販売の様子

他にも、各地域で開催されるイベントに商品を並べ、市場調査をし、商品の改良や価格の設定等を経て本販売を平成 24 年度から開始した。

リーフレット

平成 24 年１月から石巻市観光協会とも委託販売の契約を結んだ。石巻駅前という事もあり、多くの観光客の方々から購入して頂いている。更に、平成 25 年２月には社団法人宮城県物産進行協会宮城ふるさとプラザ（東京都）と委託契約を結んでいる。

本販売は、リーフレットの注文承り書でＦＡＸ注文を受け、１週間以内に発送しているが、一つ一つ手作りであることと、アワビ貝殻が稀少であるために大量生産出来ないことから、インターネットではなくＦＡＸ受注としている。

「わたつみ」の周知は漁協系統団体、水産関係団体、更には全国漁協女性連を通じ全国の私たちの仲間にリーフレットやチラシを配布したところ、関係者口コミ等で全国の一般の方々に広まっていった。もちろんＪＦ系統団体での購入もあるが、北は北海道、南は沖縄まで、個人で購入して頂く方も日に日に増えていき、私たちの願いを込めた商品の売上が伸びるほど、全国の応援してくれる人々との絆を強く感じた。

売上については試験販売をした平成 23 年度は、41 個、約 5.5 万円、本格的に販売した平成 24 年度は 1,667 個・約 137 万円、平成 25 年 4 月から 10 月末までで 3,611 個・約 289 万円の売上となった。その売上の約 80 万円は製作した各女性部の活動費となった。

６．波及効果

本事業の効果としては「会員同士のモチベーションの向上」と「応援頂いた方々との結びつき」が挙げられる。

まず、本事業の取り組みを通じて会員同士のモチベーションが向上した。震災以降、各支所女性部単位での製作が始まったのであるが、集会所に集まって作業をする女性部においては、この事業の目的として掲げた、「製作中は『いつもの仲間の顔』を見ておしゃべりをしながら、作業を進めることが出来、笑顔と元気を取り戻すきっかけとなる」が実現し、このおしゃべりを機に活動再開する女性部が増えたように思える。「また皆に会えて嬉しい」「また集まろう」「浜の復興に向けて頑張ろう」とお互いに励まし合い、ふさぎ込んでいた仮設生活から少しずつ前進する気持ちになったと話す会員もあった。また、内陸に避難した会員の中には、この共同作業で「なんとなく浜に戻りづらい」の気持ちを「浜に通いたい」気持ちに向けるきっかけとなった方もたくさんいた。

この他に、応援頂いた方々との結びつきが深まったことが大きな財産となった。なんといっても、販売に関しては、地域のイベントに参加すると県内外からのお客さんたちに「応援してます！」「たくさん買っていくから活動再開にむけて頑張ってください」などアクセサリーを手に取りながら暖かいご声援を頂いた。全国からの注文においては、水産関係団体、ＪＡ女性組織、特に全国漁協女性部組織にはたくさん協力して頂いた。「活動を再開し、私たちと共に復旧・復興に向けて前進していきましょう」と背中を押してくれた私たちの仲間との絆が、今まで以上に深くなったと言える。

私たちはこの震災で多くの大切な物を失った。しかしそれ以上に得るものがあり、それに気づかせてくれた仲間たち、応援してくれる方々に深く感謝している。

７．今後の課題や計画と問題点

現在、原料となる貝殻は全国にある種苗施設より生育不可となったアワビの貝殻を提

供してもらっている。本来であれば、県内産の貝殻を使用したいのであるが、本県種苗施設は震災で被災しており、貝殻を確保出来ない状況となっている。いずれは県内産の貝殻を使用し製作に取り組んでいきたいが、今のところ今後も継続して他県から仕入れなければならない。安定的に原料を確保することが重要な課題である。

また、現在宮城県内の復旧が進み、生産活動が再開しているため、漁期は本来の仕事である水揚げ作業のサポートが忙しくなった。生産活動の再開はとても喜ばしいことであるが、わたつみの製作時間が極端に少なくなってしまう。広がりを見せている活動なので、今後は漁期であっても在庫を切らすことなく製品を製作できる体制作りが必要となっている。

震災以降、脱退や休部する女性部があり、また女性部活動が思うように出来ていない支所女性部もあるが、今後この取り組みを継続することにより、復活した女性部のパワーが浜から浜へと波及し各浜支所女性部活動が再開することを願い、そこから宮城県の水産業を盛り上げ、今まで以上に活気溢れる漁村を取り戻すために取り組んで参りたい。

最後に、これまでわたつみの製作販売に多大なる協力を頂いております系統各位の皆様に誌面を借りてお礼申し上げます。